

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

成田市まち・ひと・しごと創生推進計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

千葉県成田市

3 地域再生計画の区域

千葉県成田市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の人口は、1978年の成田国際空港の開港を機に、雇用の創出や住宅開発が進んだため、人口増加が続いており、2020年3月時点において133,161人（本市住民基本台帳による。以下同じ。）となっている。しかしながら、近年は、新型コロナウイルス感染症の影響に伴い空港需要が大幅に減少するなど、空港関連従業者をはじめとした市民の流出が見られたほか、外国人の渡航制限による流入の抑制等により、人口の減少に拍車がかかり、2021年12月時点では130,318人となっている。国立社会保障・人口問題研究所によると、2045年には126,719人になると推計されている。

また、本市の年齢階層別の人口構成比をみると、国勢調査によれば、1980年から2020年にかけて、年少人口比率は23.4%から12.7%、生産年齢人口比率は68.0%から63.5%と減少する一方、高齢者人口比率は8.6%から23.8%と増加している。2045年には、年少人口比率は12.2%、生産年齢人口比率は56.2%、高齢者人口比率は31.6%（本市推計値による。）と推計しており、今後も少子高齢化の進展が見込まれている。

自然動態をみると、出生数は2008年の1,432人をピークに減少傾向となっている。一方、死亡数はやや増加傾向で推移しており、自然増減（出生数－死亡数）は、2018年に初めて死亡数が出生数を上回る自然減となり、2020年は▲197人の自然減となっている。

社会動態をみると、社会増減（転入数－転出数）は、近年では2010年を除き転入超過（社会増）となっていたが、2019年（▲30人）、2020年（▲246人）は転出超過（社会減）となっている。

少子高齢化の進展は、税収の減少や医療、介護などの社会保障費の増加が見込まれるとともに、働き手の減少に伴う経済規模の縮小や、地域コミュニティにおけるつながりの希薄化など様々な問題が懸念される。

本市においては、成田空港の更なる機能強化や国際医療福祉大学成田病院を核とした医療関連産業等の集積、新生成田市場の開場等により、雇用の場がますます増加することが期待されており、2045年までは人口は増加傾向で推移すると見込んでいるが、新型コロナウイルス感染症の影響により先行きが不透明な状況に加え、これらに対応するための新たな住環境の整備など、課題が山積している。

これらの課題に対応するため、次の項目を本計画における基本目標として掲げ、施策を推進していくこととする。

- ・基本目標1 魅力ある「しごと」で生き生きと働くことができる
- ・基本目標2 住む人が誇れ、多くの人が行き交うまち
- ・基本目標3 結婚、出産、子育ての希望や理想がかなうまち
- ・基本目標4 誰もが安心して自分らしく暮らせるまち

【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	KPI	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	雇用の場が「確保されている」と思う市民の割合	53.2%	60.0%	基本目標1
イ	人口動態における社会増減数	389人増	1,000人増 (R4からR6までの累計)	基本目標2
	観光入込客数	1,075万人	1,700万人	基本目標2
ウ	合計特殊出生率	1.18	1.43	基本目標3
	理想の子ども数と予定子ども数	0.62人	0.30人	基本目標3

	も数の差異			
エ	市への誇りや愛着を持って いると思う市民の割合	66.2%	70.0%	基本目標4
	市民の住み心地満足度	79.3%	80.0%	基本目標4

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する
特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

成田市まち・ひと・しごと創生推進事業

- ア 魅力ある「しごと」で生き生きと働くことができるまちをつくる事業
- イ 住む人が誇れ、多くの人が行き交うまちをつくる事業
- ウ 結婚、出産、子育ての希望や理想がかなうまちをつくる事業
- エ 誰もが安心して自分らしく暮らせるまちをつくる事業

② 事業の内容

- ア 魅力ある「しごと」で生き生きと働くことができるまちをつくる事業

成田国際空港を擁する本市の特性を活かし、空港関連産業を中心とした地域経済の活性化を図りつつ、新たな企業の誘致を促進することなどにより、多くの働く場・機会を創出するとともに、観光、農業、物流業など、地域の特色と強みを持つ魅力ある「しごと」により、多くの人を惹きつけ、市民が生き生きと働けるまちを目指す事業。

【具体的な事業】

- ・ 空港を活用した戦略的な企業誘致の推進
- ・ 市内商工業の振興
- ・ 中小企業の経営を支援

- ・卸売市場の機能強化
- ・次世代の農業経営者の確保・育成と農地集積の推進
- ・農業の競争力の強化
- ・魅力的な就業環境と担い手確保
- ・誰もが働きやすい環境の実現 等

イ 住む人が誇れ、多くの人が行き交うまちをつくる事業

本市特有の魅力ある観光資源を最大限活用し、市民が誇れる・住み続けたいまちづくりを進めることで、移住・定住の促進、転出の抑制を図るとともに、新たな人の流れを創出・拡大し、国内外から本市を訪れる観光客等へのおもてなしを通じて、多くの人が行き交い、活力とにぎわいに満ちたまちを目指す事業。

【具体的な事業】

- ・移住・定住の推進
- ・観光産業の振興
- ・新たな観光資源の整備・発掘と公共空間を活用した「にぎわいの創出」
- ・スポーツツーリズムの推進
- ・成田市とのつながりの強化 等

ウ 結婚、出産、子育ての希望や理想がかなうまちをつくる事業

結婚、出産、子育てまでの各ライフステージに応じた切れ目のない包括的な支援により、本市で子どもを産み育てたいと考える市民を後押しすることで、市民の結婚や出産、子育てに関する希望がかなうまちを目指す事業。

【具体的な事業】

- ・結婚・妊娠・出産の支援
- ・幼児期の教育・保育の充実
- ・地域における居場所づくりと子育て支援の充実
- ・新たな時代に対応した教育の推進 等

エ 誰もが安心して自分らしく暮らせるまちをつくる事業

誰もが共に支え合い、安心して生活できる地域共生社会の実現に向けて取り組むとともに、大規模災害や感染症等に備えた防災対策と犯罪の起こりにくいまちづくりを促進します。また、環境に配慮しつつ都市機能や公共交通ネットワークの充実を図るとともに、地域資源を活かしたまちづくりを推進し、誰もが安心して自分らしく住み続けられるまちを目指す事業。

【具体的な事業】

- ・ 地域医療体制の充実
- ・ 介護環境の整備と健康づくりの推進
- ・ 安全で安心して暮らせるまちづくり
- ・ 快適な市街地の形成
- ・ 新たなまちづくりの推進
- ・ 持続可能な交通ネットワークの形成
- ・ 脱炭素化に向けた取組みの推進
- ・ 国際性豊かなまちづくり
- ・ 市有財産の有効活用 等

※なお、詳細は成田市第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

300,000千円（令和4年度～令和6年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度3月頃、外部有識者会議である「成田市まち・ひと・しごと創生推進会議」の意見を踏まえて事業の効果を検証し、検証後速やかに市ホー

ムページで公表する。

⑥ **事業実施期間**

2022年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

地域再生計画の認定の日から2025年3月31日まで